

《気象のこよみと季節予報》

例年では5月の最高気温は20℃前後、ひとが暮らすにはもっとも快適な温度といわれています。「三月の風と四月の雨が作る美しい五月」初夏の好季節をよく表している言葉です。

- ▽ 2日 「八十八夜」立春から88日目
- ▼ 4日 霜の降りた最晩日(1991年)
- ▽ 6日 「立夏」(二十四節気)
- ▼ 15日 日降水量219mm(1977年)  
発達した低気圧による
- ▽ 21日 「小満」(二十四節気)

日立の気候表

	4月	5月	6月
平均気温	12.0℃	16.1℃	19.1℃
降水量	137.5mm	160.6mm	169.4mm
日照時間	175.0時間	174.8時間	114.7時間

【平年値(1971~2000年)】

【関東甲信地方の気温・降水量の予報】

5月の気温は平年並みか高いと予想されています。

【出現確率%】



《海洋と潮位》

地球温暖化による海面上昇が将来にわたり懸念されています。

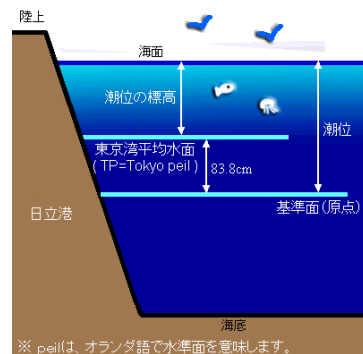
海面は月や太陽の引力によって周期的に満潮と干潮を繰り返し、また海流の影響などによって絶えず変化していますが、長年連続して観測平均したものが平均海面です。

日本の標高は、東京湾における平均海面を基準として定められており、これをT.P(Tokyo Peil)と呼んでいます。

潮位は月や太陽の動きからあらかじめ

求めることができますが、日立では日立港における推算潮位をホームページで公表しています。標高との関係ではTP(東京湾平均海面)から-83.8cmが日立港の潮位の基準面となっています。

(下図参照)



しかし、実際の潮位はその時の気象状況によって変化します。

台風や低気圧に伴う風が沖合から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられて海岸付近の海面上昇が起こります。これを「吹き寄せ効果」といいます。

吹き寄せによる海面上昇は風速の2乗に比例し、風速が2倍になれば海面上昇は4倍になります。特にV字型の湾や入り江は奥ほど狭まる地形のため、湾の奥ではさらに海面が高くなります。

また、気圧が低くなると海面が持ち上がり、気圧が1ヘクトパスカル低くなると海面は約1cm上昇するといわれており、台風が接近して気圧が50ヘクトパスカル下がれば、海面は50cm高くなります。これを「吸い上げ効果」と呼んでいます。

このような現象が高潮で広範囲に思いがけない災害をもたらします。過去日立でも発生し家屋への被害もでています。※日立市の天気予報は、天気相談所ホームページで毎日発表しています。

<http://www.jsdi.or.jp/~hctenso>

電話での問合せは、直通電話 22-5520 IP 電話 050-5528-5066 へどうぞ。